

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	放送映画リテラシー D 1	
科目基礎情報					
開設学科	放送芸術科科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	馬場定雄		実務経験の有無・職種	有・映像制作の演出	
学習目的					
映像技術が目まぐるしく変化する現代に映画・テレビ・ネット配信にとどまらない色々な映像機器の種類を学び今後の5 G時代に向けて映像作品を制作する上での基礎技術力を取得。					
到達目標					
これまで学習して来た映像技術をさらに一段階あげ最新の映像制作における映像技術の知識や様々な製作プロセスを理解し総合的な技術力の総仕上げとする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、現代までの映像技術から最新の技術までのハードウェア及びソフトウェアの知識を学びその知識を元に想像力・発想力を膨らませ最終的には個々の技術力の向上を伸ばすことが目的である。				
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。社会の桃子公に注意し自分でも、情報を収集、起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト				
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	放送とは		東京タワーと東京スカイツリーの役割、放送局の仕組みを理解する		
2回	デジタルメディア用語		ポストプロダクションにおけるデジタルメディア用語を学ぶ		
3回	放送局の仕組み 1		デジタル地上波、ワンセグ放送の仕組みを学ぶ		
4回	放送局の仕組み 2		BS, CS, CATVのそれぞれの役割を理解する		
5回	色々な放送仕組み 1		CSの仕組み電波の種類を学ぶ		
6回	色々な放送仕組み 2		CSの仕組み衛星からの受信方法を学ぶ		
7回	色々な放送仕組み 3		ネット配信のコンテンツ制作について理解する		
8回	色々な特殊撮影機器 1		クレーン、レール、steadyCAM、シンバルカムなどの特殊撮影機器の撮影方法を学ぶ		
9回	色々な特殊撮影機器 2		スカイカム、スパイダーカム、ドローン、ジンバルカメラなどのリモートカメラの仕組みを学ぶ		
10回	色々なテレビ		ブラウン管からプラズマ、液晶、有機ELまでの歴史を学ぶ		
11回	色々な撮影カメラ機器 1		4K放送やHDRについて仕組みを理解する		
12回	色々な撮影カメラ機器 2		映画用カメラ、放送カメラ、レンズの種類を学ぶ		
13回	色々な編集、合成機器 1		AVID、FinalCutPRO、プレミア、ダビンチなどのノンリニア編集機の種類を学ぶ		
14回	色々な編集、合成機器 2		映像合成機器の種類や合成のしくみについて理解する		
15回	映像フォーマットについて		映像業界で使用されている色々なファイル形式や記録媒体を理解する		